



生駒市立上中学校

校長室だより

第 3 号

令和 6 年 5 月 1 日



教室はまちがうところだ 蒔田 晋時

教室はまちがうところだ
みんなどんどん手を上げて
間違った意見を言おうじゃないか
まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことをおそれちゃいけない
まちがったものをワラっちゃいけない
まちがった意見を まちがった答えを
ああじゃないか こうじゃないかと
みんなで出しあい言う合う中で
ほんとうのものをみつけていくのだ
そうしてみんなで伸びていくのだ

いつも正しくまちがいがいない
答えをしなくちゃならないと思って
そうしたことだと思っているから
まちがうことがこわくてこわくて
手もあげないでちいさくなって
黙りこくって時間がすぎる
しかたがないから先生だけが
勝手にしゃべって生徒はうわのそら
それじゃあちっとものびてはいけない

(中略)

うつむきうつむきそうっと上げた手
はじめて上げた手
先生がさした どきりと胸が大きくなって
どきどきと体が燃えて立ったとたんに
忘れてしまった

(中略)

まちがいだらけの僕らの教室
おそれちゃいけないワラっちゃいけない
安心して手を上げろ 安心してまちがえや

(後略)

風薫る 5 月となりました。そろそろ新しいクラスに慣れてきたころ、と同時に緊張感も少なくなり、ちょっとしたトラブルが発生したり、体調も崩しやすくなるのがこのゴールデンウィークの頃からかと。部活動もありますが、連休は新学期から頑張り続けていた心と体のひと休みとなればいいなあと思います。

さて、今回は、絵本にもなった蒔田晋時さんの「教室はまちがえるところだ」の詩を一部紹介します。絵本をどこかで見つけたら、ぜひ全文を読んでみてください。

「みんなが楽しいといえる学校」を目指すためにも、学校生活の日々を過ごす教室が安心した居場所であることが大切です。今回この詩を紹介したのは、一つには間違ってもいい、間違いを恐れずに自分を出していこうというメッセージが込められているからです。また安心してまちがえられるクラスであって欲しいと願っているからです。これってとても難しいことでもありますね。間違いを恐れず自分を出していくというのはなかなか勇気のいること、個人の問題だけではないでしょう。クラスの中には、間違えたり失敗すると笑ったり、陰でコソコソ言ったり、自分たちと違うと排除したり…と心配は尽きないことかも知れません。他者の色々な考えを出し合いながら正解を導いていく姿勢のあるクラスであること、そのためにもお互いの違いを認め合って尊重しあうことが何より必要なことだと思います。

この詩の最後は「そんな教室作ろうや」で終わっています。

上中のどのクラスも「自分が安心できるクラス、そんなクラスを作ろうや。」